

ジオテック地盤プロフェッショナリズム宣言 (すべきことを当たり前、近隣イメージづくりにも貢献)



■宣言1

建築の先陣を切って現場に入る私たちは近隣への配慮を怠りません。清潔で統一感のある服装、無駄のない作業、整理の行き届いた現場を心がけ、建築会社、建て主、住まい手への近隣負担軽減に努めます。



■宣言2

私たちは、施工前の危険度予測活動(KYミーティング)を欠かしません。各現場の危険度を施工チーム全員で点検し、再認識することにより、事故の発生を未然に防ぎ、常に施工精度と品質の向上を目指します。



■宣言3

施工後の撤収作業は、人や車の通行に十分注意し、慎重かつ迅速に行います。施工機や機材の積み出しが完了したところで、隣接道路等の清掃を行ない、泥汚れを残さないよう配慮しています。

施工機・車輛



施工機(クローラ)



施工機(建柱車)



大型回送車



施工機(狭小地対応機)



ラフタークレーン



油圧ショベル(バックホウ)



ダンプカー

機材スペック・適用条件

●施工機(クローラ)

寸法	全長5500-7800mm程度、 全幅1900-2100mm程度、 全高2400-2800mm程度
----	---

●施工機(狭小地対応機)

寸法	全長3700-4500mm程度、 全幅1600mm前後、 全高2300-2500mm程度
----	--

●施工機(建柱車)

寸法	全長6200mm程度、 全幅1900mm程度、 全高3200mm程度
----	--

●大型回送車

説明	施工機の運搬用
寸法	全長7500-9000mm程度、 全幅2300-2500mm程度、 全高2500-3000mm程度

●ラフタークレーン

適用	吊り込み搬入を必要とする場合
説明	吊り上げ能力により、10t、25t、50t、70tなどがある

●ダンプカー

適用	残土やガラの搬出を必要とする場合
説明	積載荷重により、2-4t、10tなどがあり、住宅地では2-4tの利用が一般的
寸法	全長4700-5300mm程度、全幅1700-2200mm程度、全高2000-2500mm程度

●油圧ショベル(バックホウ)

適用	ガラや地中障害物の搬去を必要とする場合など
説明	バケット容積(m³)により、0.2、0.25、0.4、0.45などがある
寸法	全幅1900-2300mm程度

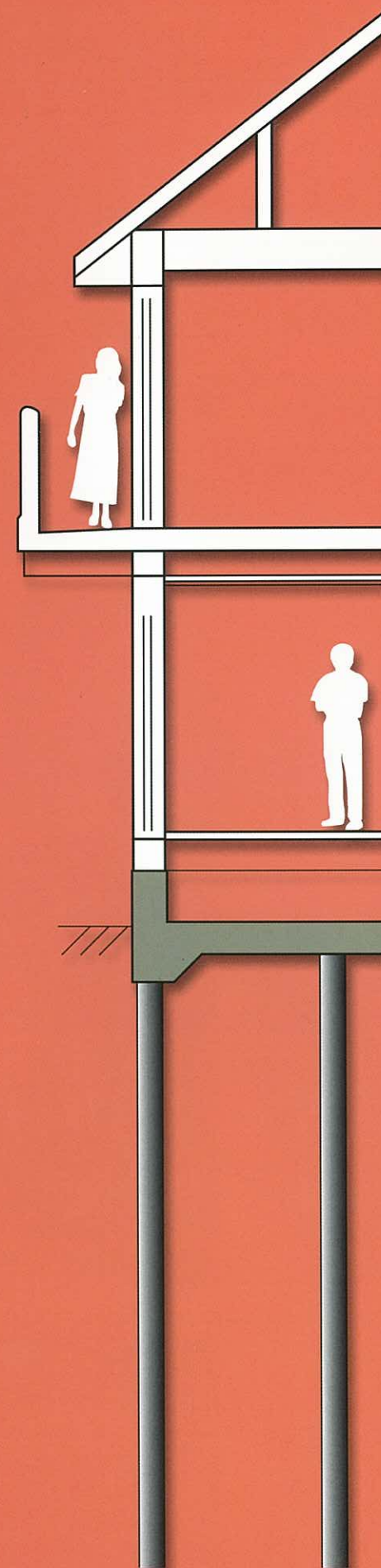
<http://www.jiban.co.jp/>

ジオテック株式会社

〒161-0033 東京都新宿区下落合2-3-18 SKビル
TEL.03(5988)0711(代) FAX.03(5988)0721
<http://jiban.co.jp>



ジオテック
フランチャイズチェーン・システム本部



軟弱地盤対策 小口径鋼管杭工法



ジオテック株式会社

大切な家を
強固な支持層で支える

小口径鋼管杭工法

地盤状況、敷地条件への広い対応範囲が特徴です。



小口径鋼管杭工法とは

- 一般用炭素鋼管STK-400を支持層に到達させて、建物を支える支持杭工法*です。
- 鋼管杭が軟弱層を貫くため、土質や水位の影響をほとんど受けません。
- 回転圧入による打設で、近隣に影響しやすい振動・騒音がほとんど発生しません。

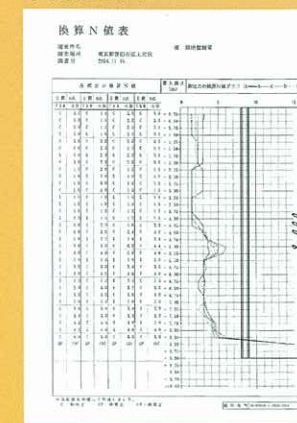
*戸建規模の建物では基礎と杭を結合しない構造であることや沈下防止対策を主な目的とすることなどから、杭的地業として扱われます。したがって、【建設省告示第1347号】にある「肉厚6mm以上」に満たない肉厚4.5-5.0mmの杭材も一般に利用が認められています。

●杭材の仕様

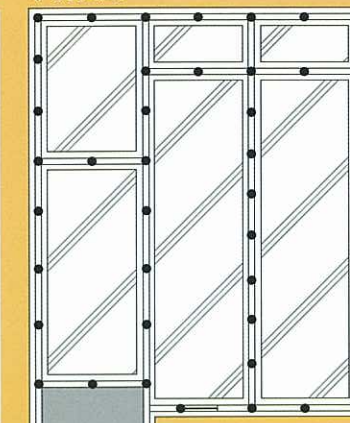
杭径 (mm)	最大杭長 (m)
114.3	11.0
139.8	13.5
165.2	16.5

注) 支持地盤に対して、杭先端を杭径の4倍程度貫入させた状態で、径の100倍を超えない長さを杭長とします。

◆杭柱状図



◆杭伏図



支持層確認に独自のプロセス

ジオテックは、スウェーデン式サウンディング試験の結果を基に、設計に必要な支持層確認を行う独自のプロセスを導入しています。

- (1) 近隣ボーリングデータとの整合性を確認
- (2) 支持層の分布深さを予測
- (3) 支持層予測深さでのPH式動的貫入試験**を実施

**PH式動的貫入試験は、通常のスウェーデン式サウンディング試験と併用して実施する打撃貫入方式の調査です。電動ピックハンマーを用いてロッドを強制的に貫入させ、一定貫入量毎の貫入時間から土の硬軟や締り具合を推定します。



●施工機



●杭材



■施工前



■杭芯セット



■回転貫入



■スリーブ溶接



■継手溶接

施工管理項目

●リバウンド試験

打設後の鋼管頭部におもりを自由落下させて、杭の沈下量を測定する原位置試験。用紙を巻きつけた杭頭部に鉛筆を触れさせておき、沈下量を記録する。建設省告示第1623号において、おもりの重量、落下高さ、杭の沈下量から杭1本あたりの許容支持力を算出する式が示されている（一宅地につき2本程度実施する）。

施工機械の選定により、狭小現場にも対応可能

鋼管を
施工機に建て込み、
打設位置に
セットする

回転圧入
により、鋼管を
鉛直に地盤中に
貫入させる

設計に応じて、
鋼管を継手溶接
にて継ぎ足し、
所定深度まで
打設する

打設後の
杭頭部を所定
レベルにて切断し、
キャップにて
仕上げる

1

2

3

4



■施工後



■杭頭プレート



■杭頭レベル調節